



スポーツ庁事業

「学校における水難事故防止対策の強化」による実践研究から見てきたもの



公益財団法人 日本ライフセービング協会
副理事長/教育本部長 松本 貴行

学校法人成城学園 保健体育科専任教諭
消費者庁消費者安全調査委員会 専門委員

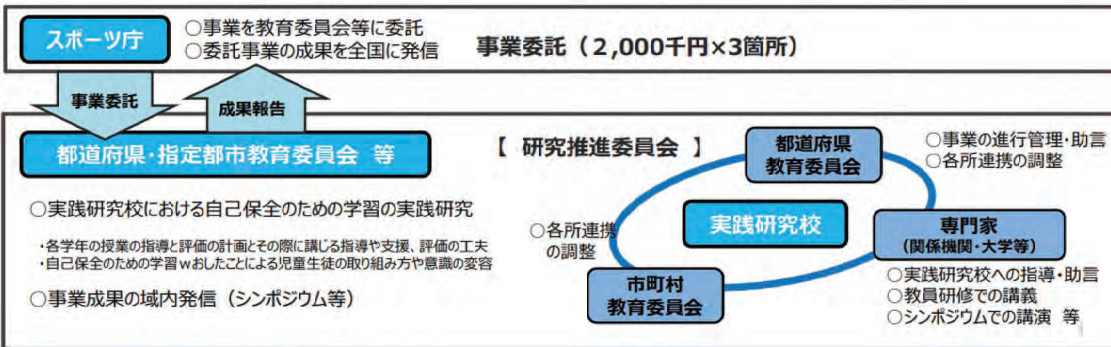


事業概要

学校の水泳の授業等において、児童生徒の命に直結する水難事故防止対策を強化するために、自己保全のための学習（着衣のまま水に落ちた場合の対処の仕方やライフジャケットの活用の仕方など）の指導内容や指導方法等の工夫について実践研究を行う。



実施体制



1 『e-Lifesaving』×水泳授業

- 小中高編における研究体制（プール実技含む）
- プールでの実技授業なし編における研究体制
- 養護学校編における研究体制

2 教育委員会・学校×ライフセービングクラブの

指導連携編における研究体制

令和4年度
令和の日本型学校体育構築支援事業
④学校における水難事故防止対策の強化より





本当の意味での水難事故防止対策とは？

自己保全のための学習

内容	着衣のまま水に落ちた場合の対処の仕方 	ライフジャケットの活用の仕方 
現状理解	事故が発生した後の対処行動	それ以上危険な状態にならないため
事故防止の観点	危険を自ら回避できる知識	着用の有無を自ら判断し、活用できる能力

水辺における安全知識と技能を広め、誰もが安全に楽しむことのできる社会

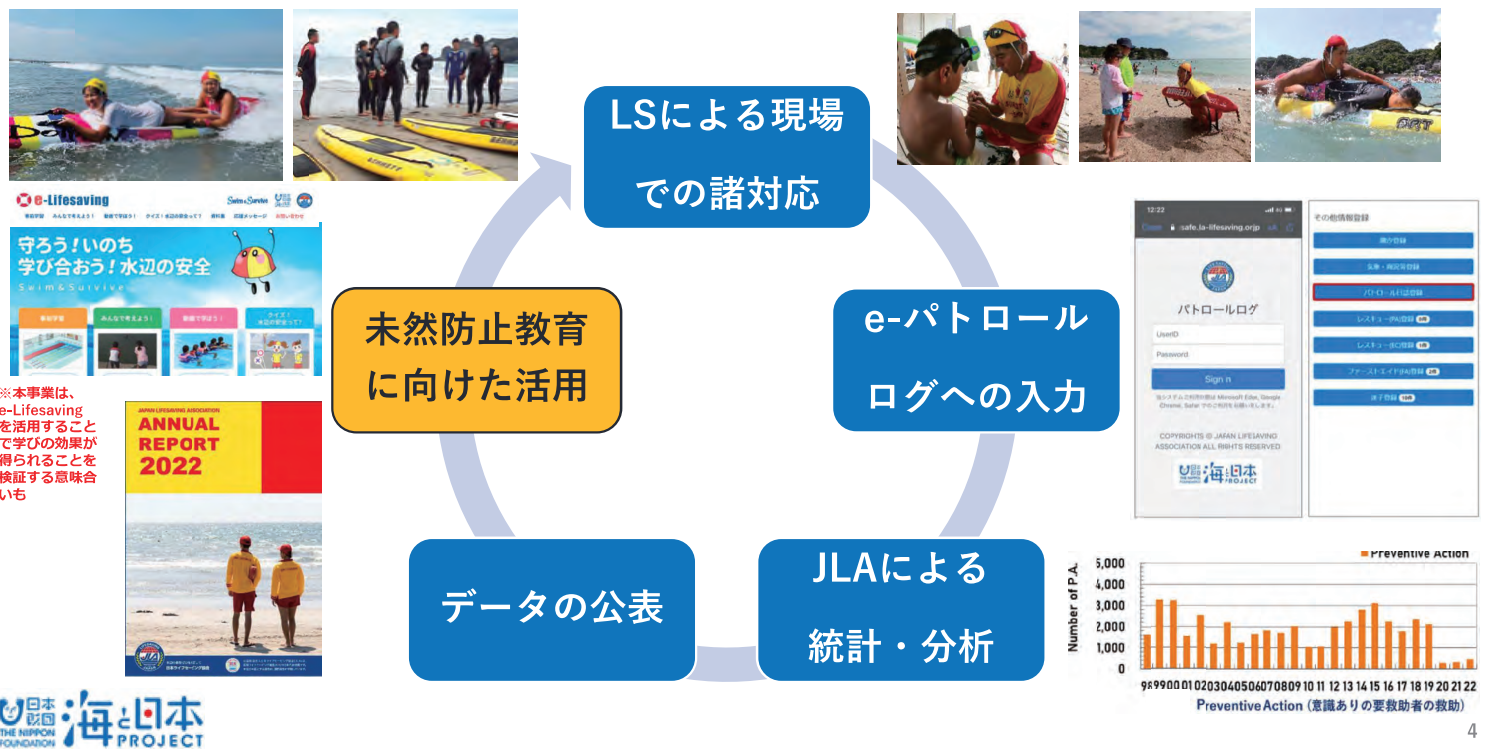
安全の自律へ



令和4年度
令和の日本型学校体育構築支援事業
④学校における水難事故防止対策の強化より



持続可能なライフセービング教育システム（教育根拠）





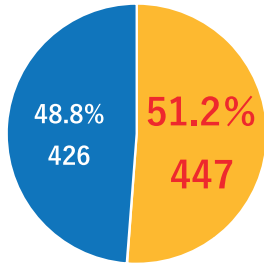
今までに溺れたり、溺れそうになったことはありますか？

→ 約半数の児童・生徒が、**溺れの経験がある**

※複数回答可

プールのない
小・中学校の
児童・生徒

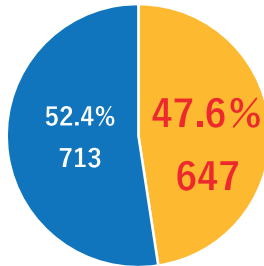
n = 873名



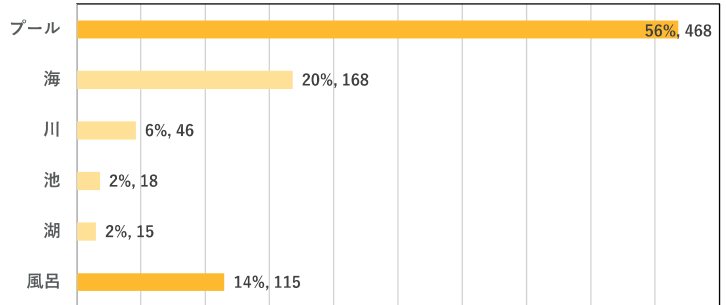
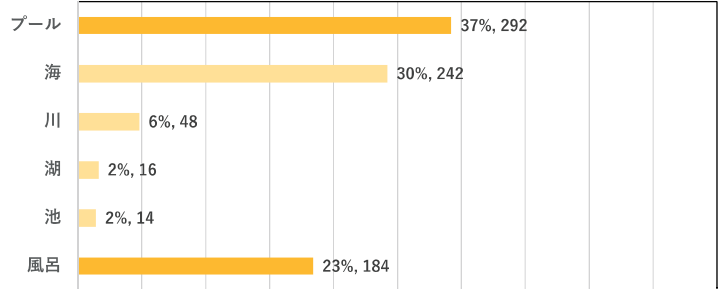
ある → ない

プールのある
小・中学校の
児童・生徒

n = 1,360名



ある → ない



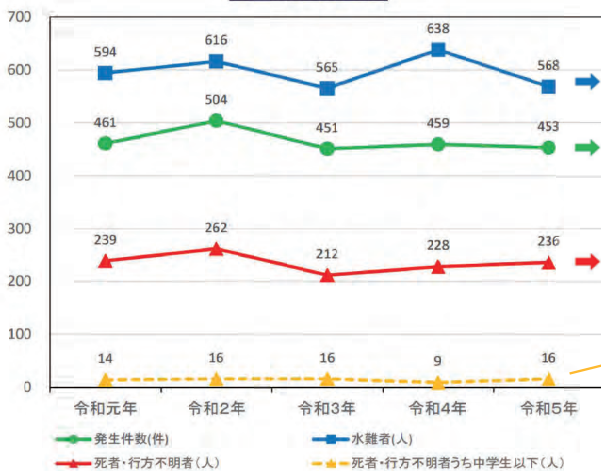
令和4年度
令和の日本型学校体育構築支援事業
④学校における水難事故防止対策の強化より



令和5年夏期における水難の概況分析 (Topic: 中学生以下)

警察庁生活安全局生活安全企画課
令和5年9月13日より引用、作成

発生件数等の推移



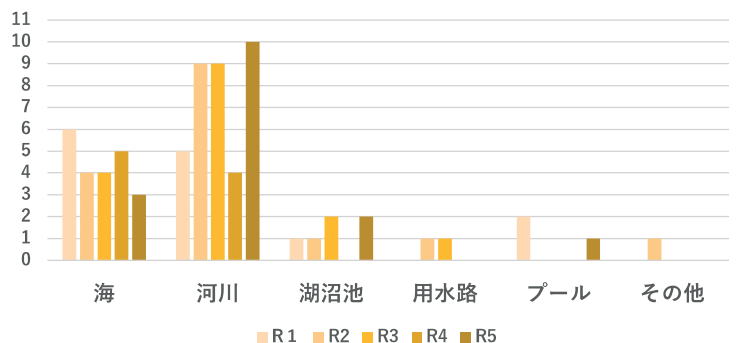
中学生以下は**106人** (18.7%) 前年対比-14人

中学生以下は**49件** (10.8%) 前年対比-1件

中学生以下は**16人** (6.8%) 前年対比+7人

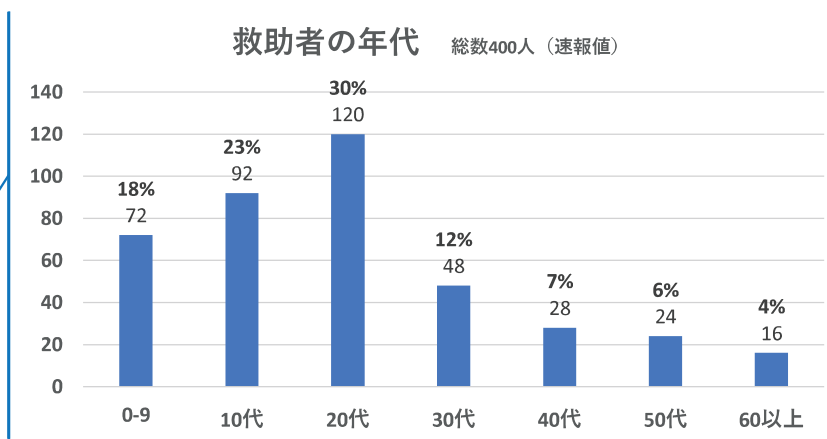
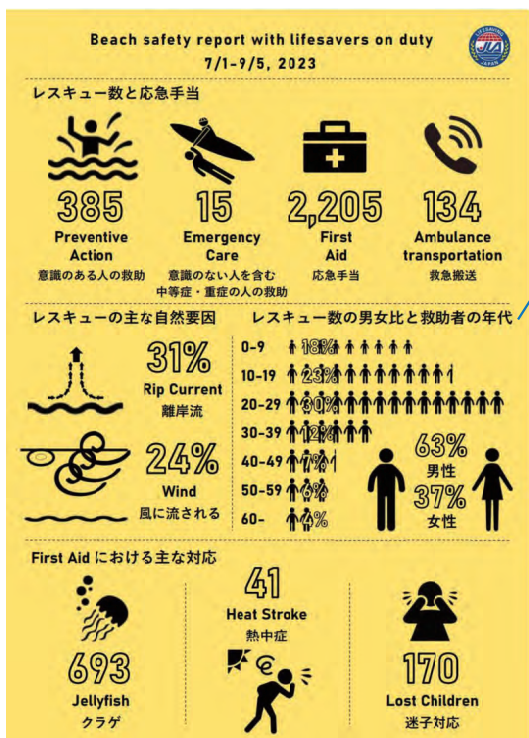
令和5年夏期における水難の概況分析 ~Topic: 中学生以下~

場所別 死者・行方不明者数 (中学生以下)





令和5年夏期における海水浴場のレスキューレポート JLA速報値より

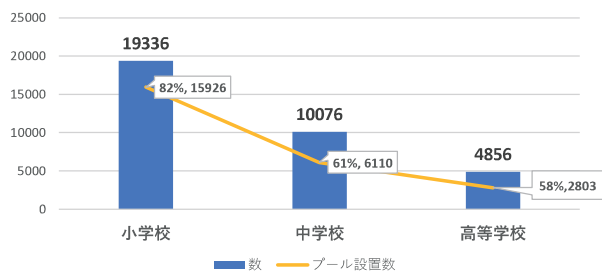


水泳を取り巻く背景と「水難事故防止教育」の具体的な課題検証

1. 水泳授業の課題 ※今後、外部指導委託や水泳を実施しない学校も

- ① プール設置率は72% (小中高)**
→ さらに減少の一途 (老朽化、維持費膨大)
- ② 98%が屋外プール**
→ 猛暑、雨天、落雷、熱中症アラート
- ③ 教員の過負担や資質の問題**
→ 清掃や水質管理、安全対策や水泳指導に自信が持てない
- ④ 水難事故防止教育の課題**
→ 「背浮き」の体験で本当に事故は防げるか？
プールの無い学校で水泳運動の心得をどう教えれば良い？

学校数とプール設置数 (2021年調査)



小学校5, 6年生の167名を対象とした背浮きの実験※水泳の授業6時間目、ほぼ毎時間、背浮き指導あり

→背浮きで**30秒間**、浮いて呼吸を確保できた児童は**53名 (31.7%)** @外プール、水着

突発的な事故、川の流れや海の波などがある自然環境では困難

日本水難救済会と日本ライフセービング協会の実証実験@海上保安庁横浜海上防災基地 波を人工的に発生させての実験

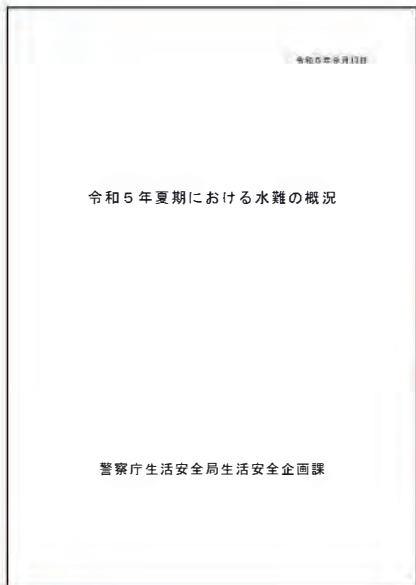
「背浮き」「浮いて待て」は海では困難 波があると水泳上級者でも1分持たず 必要なのはライフジャケット 東京新聞より



文部科学省の担当者は「背浮きを海で活用する想定では指導していない。あくまで安全確保につながる運動の一環」 東京新聞より



水難の概況に記されている「水難の防止対策」こそ、教育へ



令和5年夏期における水難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課

3 水難の防止対策

水難を未然に防ぐためには、海や河川など、それぞれの自然環境の特徴を理解し、水難につながりやすい危険な場所、危険な行為などを知らることが重要であり、次に掲げる点に留意する必要がある。※引用

- ①危険箇所の把握
- ②的確な状況判断
- ③ライフジャケットの活用
- ④遊泳時の安全確保
- ⑤保護者等の付添い



すべてを網羅したICT教材（無料）

e-Lifesaving

Swim+Survive

守ろう！いのち
学び合おう！水辺の安全
Swim & Survive

【e-Lifesaving 主な掲載一覧】

- 文部科学省 子供の学び応援サイト学習支援コンテンツポータルサイト内 小学校「体育」、中学校「保健体育」
- スポーツ庁 通知「学校における児童生徒等に対する水泳指導等について」
- 消費者庁 子どもの事故防止週間において 「海・川・プール等での水の事故全般に関する参考資料等」
- 海上保安庁 「Water Safety Guide」内、遊泳の安全情報
- こども家庭庁「こどもの事故防止に関する取組事例」掲載

※延べ 223,218User 3,913,871 PV (2020-2023, 9月現在)



e-Lifesavingを活用することで「なぜ？」「どうする？」を自分事として考える

動画



主体的、対話的な学びの実践により、
事故防止のための知識や意思決定を構築する



自分であればどう考えるのか？



他の人はどの立場な考えや
気づきをもつのか？



ライフジャケットの必要性を
実感した先に着てみる

水泳場が確保できなくても、水難事故防止への学びの効果は得られる

令和4年度
令和の日本型学校体育構築支援事業
④学校における水難事故防止対策の強化より

ライフジャケットを正しく着て、活用することができますか？

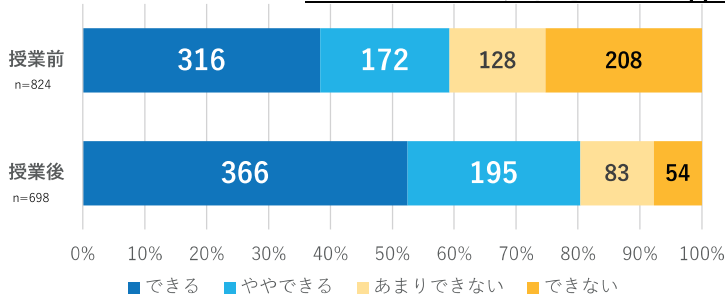


図2. e-Lifesaving + 教室でのライフジャケット着用体験

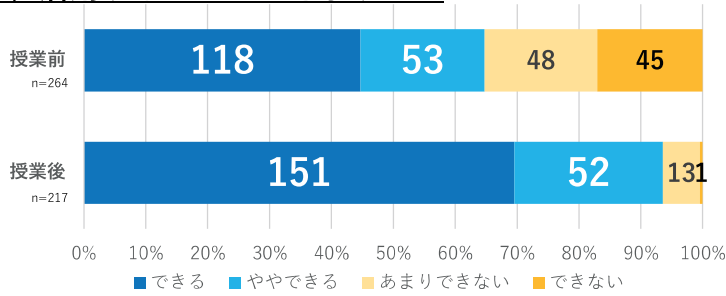


図3. e-Lifesaving + プールでのライフジャケット実技体験

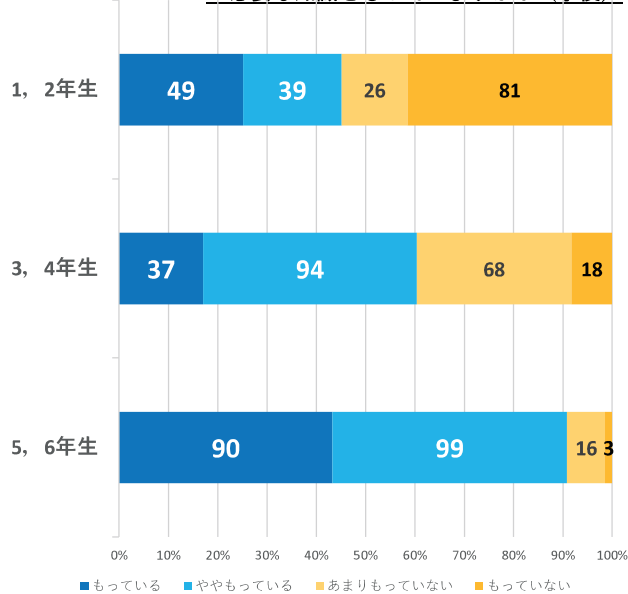


「ややできる」以上が59%→80%に上昇
e-Lifesavingを通じてライフジャケットの正しい着方と必要性を実感。プール実技が無くても学びの効果は得られる。

「ややできる」以上が64.8%→93.6%に大きく上昇
実技を併用することでより高い教育効果が得られる。外部委託の際にも学校と委託先と連携し、実践してほしい水難事故防止教育。

学年があがるにつれて、水難事故防止の知識は上昇する（継続的な学びの重要性）

Q. あなたは水辺でおぼれないため（水難事故防止）の必要な知識を持っていますか？（事後）



各学年で実施したe-Lifesavingのコンテンツ

【2年生】
【使用コンテンツ】
・「事前学習」→プールに入る前に「水に入ったら〜」
・「動画で学ぼう」→「安全なプール活動」→「安全な水への入り方(スリッパイン)」
「安全な水からの上がり方(1人で上がる場合)」
「安全に活動するために(バディ)」

【4年生】
【使用コンテンツ】
・「動画で学ぼう」→「動画を見る方法」→「ライフジャケットの正しい着方」
「ライフジャケットの着用による効果」
「乗船人での着用を待つ方法」
「乗船人での着用を待つ方法」
・【資料集】→「関連動画」→「リアードンチャー」

【6年生】
【指導上の留意点と工夫した点】
ライフジャケットを実際に持ってきて見せた。事前に教室で着用体験を消ませておくことにより、プールでの実技をスムーズに行うことができた。

【指導上の留意点と工夫した点】
※浮き方には様々な方法があり、全てできなくてもどれか1つでもできれば自分の命を守ることができることを説明した。
※緊急の場でも適切な対応法について、近くの人と相談する時間をとって考えさせた。

「ややもっている」以上が

学年があがるにつれて

45.1% ※1, 2年

↓

60.4% ※3, 4年

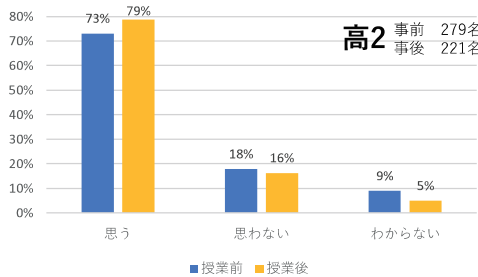
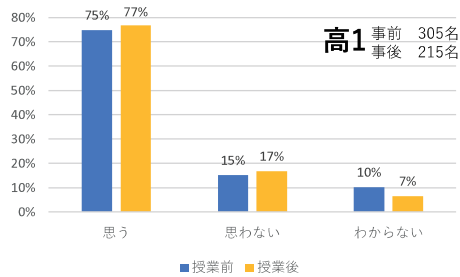
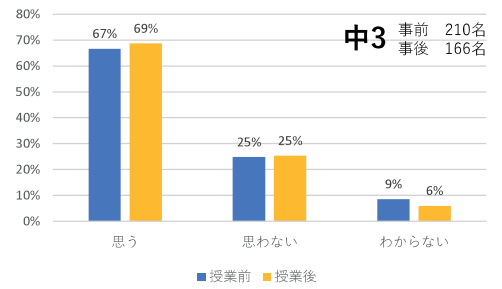
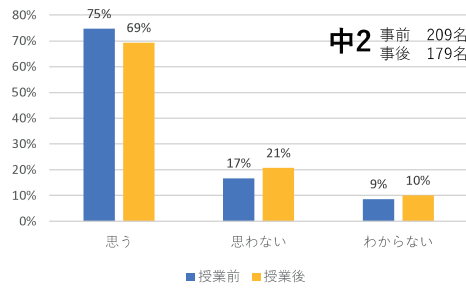
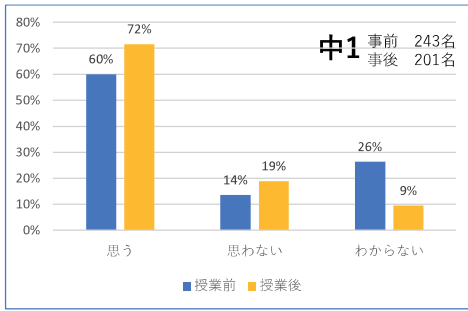
↓

90.9% ※5, 6年

に上昇

資料 1 ; アンケート調査

海や川などへ遊びに行きたいと思いませんか？



◆特に水泳学習の実技を実施した中1は、授業実施後に「思う」が12%も上昇した。他学年の座学による学習と比較してみても最も変化が大きかった。

→通常の泳法指導に加え、ライフジャケットを用いた実技を実施することで、水への安心感や親しみ、自信にもつながったのではないだろうか。

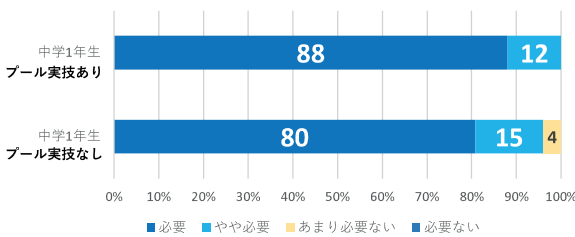
e-Lifesavingを用いて自然に向かう上での知識や実践の「そなえ」を携えることで、「海や川へ行きたいと思う」意欲や興味関心を妨げることなく、やや上昇傾向にあった

令和4年度
令和の日本型学校体育構築支援事業
④学校における水難事故防止対策の強化より

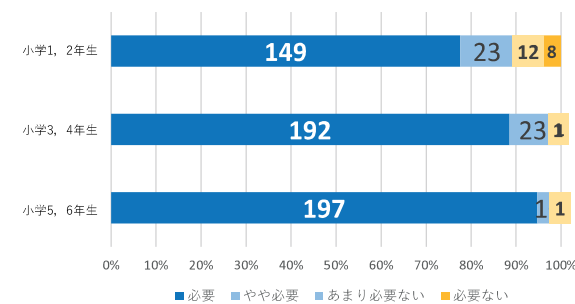
水難事故防止のための授業は必要

《e-Lifesaving ICT教材としての有効性》

『すべての学校で、海や川などでの水難事故を防止するための授業は、必要だと思いますか？』



⇒ プール実技のあるなしに関わらず、生徒は教育の必要性を実感している



⇒ 学年があがるにつれ、水難事故防止教育の知識が充実することで、本教育の必要性を実感している

令和4年度
令和の日本型学校体育構築支援事業
④学校における水難事故防止対策の強化より

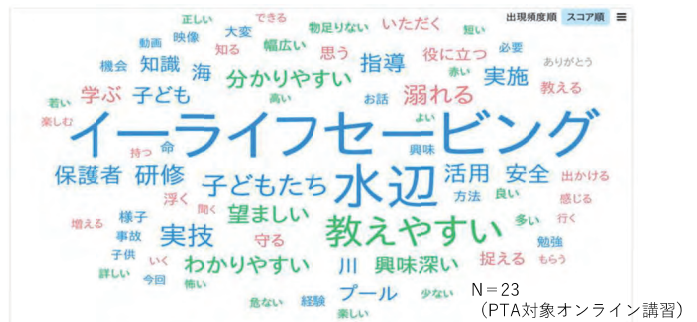


図1 e-Lifesavingを活用したいと思いますか

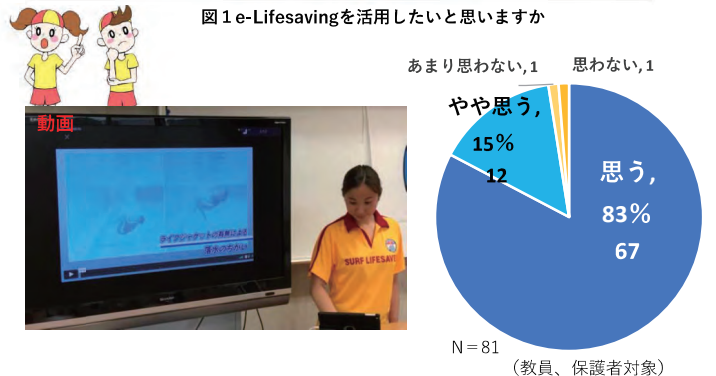


図1 e-Lifesavingを活用したいと思いますか



水辺の事故をゼロにするための意思統一と適切な財政措置、仕組み創りへ

➤ 溺水事故予防・普及活動の推進

- ① ナショナルデータの一元化(官民連携)
- ② 溺水事故要因の整理と重点ポイントのコンセンサス
- ③ WS教育促進や溺水事故予防のための予算支援
(授業・研修・啓発・人材育成・ライフジャケット等)
- ④ WS教育のナショナルフレームワーク策定

令和4年における水難の概況 (年間)

水難者 1,640人 (うち死者・行方不明者727人)

→ **44.3%の人が命を落としている** ※交通事故の死亡率は0.85%

→ このうち、**中学生以下は198人 ≪12.1%≫** (うち死者・行方不明者は**26人**)



参考-5 交通安全に関する財政措置

第1表 陸上交通安全対策関係予算分野別総括表

事 項	(単位:百万円)			
	令和3年度 当初予算額	令和4年度 当初予算額	令和5年度 当初予算額	比 較 増減額
2 交通安全思想の普及徹底	651	703	755	52
(1) 交通安全思想普及推進事業(内閣府)	47	45	45	—
(2) 交通安全教育・普及活動の推進(警察庁)	20	23	27	4
(3) 交通安全教育指導等(文部科学省)	581	632	680	48
(4) 飲酒運転事犯者処遇の充実強化(法務省)	3	3	3	—

R5年度予算 約7.6億円 (内閣府・警察庁・文科省・法務省)